

自然の恵みを感じる生物多様性マガジン「イキトモ」

日常のものから
考えよう。

再生紙、天然染、
オーガニックコットン、
国産木材…。

ものづくりと 生物多様性



VOL.

7

SPRING
2014

私たちの身近にあるものと生物多様性。一見、何の関係もなさそうですが、これらが何から作られ、どこからやって来たのかを考えてみると、生物多様性とのつながりを感じられることがあります。



ものが何からつくられて いるのか考えてみよう。



SWEATER

ペルーの伝統的な模様が編み込まれた手編みのニット(アルパカ原毛色伝統柄セーター参考商品)

TOY

小さな子供たちに人気の木製の動くおもちゃ。(国産木材のおもちゃ アヒルのくるま)



自然な風合いのタオル(エジプトオーガニックコットン天然染・バスタオル、フェイスタオル)

TOWEL

SOFT CASE

暖かみのある優しいフォルムはハンドメイドならではの(ウールフェルト携帯機器ケース)



DENIM

履き馴染んだかのようなユーズド加工のデニム(ジャパンデニムテーパードボーイフレンド)

NOTEBOOK

シンプルなノートはサイズ展開も豊富(再生紙ノート・無地ページ)



生物多様性



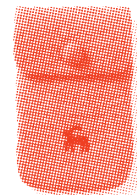
〈アルパカ〉

ALPAKA

原色のままのアルパカのニット

自然の中で生きる動物たちはさまざまな色をしています。種類や環境によって、毛の色や特徴も異なります。そんな自然の恵みを生かした原色のままのセーター。それぞれの毛の持ち味をもっとも生かせる方法で編まれています。

南米ペルーのアルパカの毛を使用。



豊かな自然が残るキルギス。JICAの一村一品プロジェクト^(※)との取り組みのひとつ。

中央アジアの国、キルギスのフェルト雑貨は基本的に農薬を使用していない土地に放牧している羊毛から作られたもの。経済体制変革によって壊されたコミュニティの復活や地域の女性雇用などに寄与しています。

〈フェルト〉

WOOL

無農薬の土地で育った羊の毛を使用。

生物多様性とのつながりを大切にしたものづくりがあります。

使う立場からも、原材料や由来を考えて、選ぶことが大切。

身近なものからも、生物多様性を感じてみましょう。



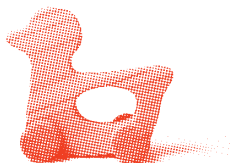
どの森林からきた木材なのかを確認。

〈国産木材〉

WOOD

産地のわかる木のおもちゃ

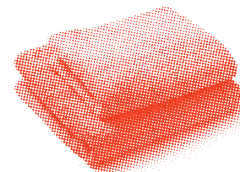
部材別に、部材の原料となる木材の産地を確認して、違法伐採にかかわる木材を使用しないように努めて作られたおもちゃ。これは愛媛県産のヒノキ製。やさしい木肌が特徴のヒノキ材は木のぬくもりが感じられるよう無塗装で仕上げられています。



〈天然染〉

ROSE

バラの茎を染料にしたタオル



かつては大量に茎が出荷後に捨てられていた。

本来捨てられていたバラの茎を染料にして、優しい色合いに仕上げられたタオル。ほかにも染料の原料にヤシの実の殻などを使用しており、抽出後の残りがすも有機肥料として活用されています。

INTERVIEW

第4回 企業と生物多様性

PLEATS PLEASE ISSEY MIYAKE

ブリーツ プリース イッセイ ミヤケ 1993年にスタートしたファッションブランド。2014年秋冬コレクションでグラフィックデザイナー永井一正氏とのコラボレーション作品(写真右)を発表。
www.isseymiyake.com



暮らしの中のロングライフデザイン

Q 公益財団法人日本デザイン振興会の主催する、「2013年度グッドデザイン・ロングライフデザイン賞」の特別賞を受賞されました。

A 発売以来10年以上継続的に提供され、ユーザーや生活者の支持を得ていると思われる商品などのデザインから選出されるもので、衣服の特別賞受賞は初めてだそうです。

Q 20年以上も同じ、ブリーツという独自の製法による製品を特徴とされていますね。

A 素材はポリエステル100%、軽くてシワにならず、洗濯機で水洗いができて、すぐに乾く。そして元の形に戻ります。縫製をして服のかたちにしてからブリーツをかける独特の方法により、さまざまな機能性を備えた造形美が生まれるのです。

Q 同じ素材、製法で製品を

作り続けている点で、ロングライフデザインと言えますね。

A 単なるファッション、流行ではなく、「暮らしの中で生きてこそ、デザインの存在価値がある」という三宅一生の考えを実現していることもグッドデザインとして評価されています。

Q 2014年秋冬コレクションのテーマは「LIFE」でした。

A まずは「クオリティ・オブ・ライフ」という言葉に興味を持ちました。命、生活、人生…、あふれる生命力に宿る美しさ、強さを表現したコレクションを発表できたのではないかと思います。

Q 日本を代表するグラフィックデザイナーの永井一正さんの1993年のポスター作品「LIFE」シリーズとのコラボレーションも話題ですね。

A 個性的な動物のグラフィ

ックを単なる絵柄ではなく、衣服に命(LIFE)を吹き込むことを目指し、着ることで立体となった動物たちが動き出すかのような衣服が完成しました。

Q ほかにも環境に配慮されている点がありますか？

A 当然のことですが、生地を裁断した際に出る余り布を使って新たな商品を生み出したり、石油由来のものだけを選別し、燃料として再利用しています。

Q 生物多様性に関する、今後の展開について教えてください。

A 地球リレーのバトンを次世代に渡すためにも、大切な資源を使用しているという意識をしっかり持ち、素材の耐久性、再利用、原材料の開発等、さまざまな面から自分たちができる事を進めています。

このデニムは紡績から縫製、加工まで日本で行っています。



ANSWER

〈オーガニックコットン〉

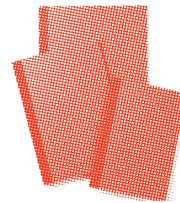
COTTON

安心&安全な素材のデニム。

農薬を使用しない土地で作られたインド産オーガニックコットンを使用したデニム。このほかにもエジプト、タンザニア、トルコなどで生産されたオーガニックコットンがさまざまな製品に使用されています。



ものづくりと



〈再生紙〉

RECYCLE PAPER

再生紙を配合したノート

資源の有効活用やゴミの減量化などの観点から、再生紙の利用は年々、増加しています。そんな再生紙(古紙パルプ配合率55%以上)を使用したノート。ムダな加工や飾りを除き、糸で綴じる製本方法をとっています。



※写真の古紙は原料です。すべてがこれらのノートになっているわけではありません。

生物多様性のことを多くの人に
知ってもらうために、2012年9
月に旗揚げした様々な団体のキ
ャラクターによる広報組織です。



生物多様性 キャラクター応援団

～全国のキャラクターからのおしらせ～

ひとはく博士

(兵庫県立人と自然の博物館)

→ <http://hitohaku.jp>



ひとりでも多くの人に生き物や環境
についてわかりやすく伝える活動を
しています。「兵庫県立人と自然の
博物館」では“地域を愛する心を育
み、地域の自然・環境・文化を未来
へ継承する”を合い言葉にさまざま
なプログラムを用意しています。

認定連携事業

UNDB-Jでは、生物多様性を守るために連携して
取り組んでいる事業を認定し、広報活動を行っています。

『無印良品キャンプ場』

株式会社 良品計画

その「のままの自然を、そのまま楽しむ」という思い
のもと、新潟県・津南、岐阜県・南乗鞍、群
馬県・カンバーニヤ燐燐の3つのキャンプ場で、地域
の人たちと一緒にしてからだ全体で大自然を感じる
ことができるプログラムを提供しています。

「自然を楽しむ」ことだけではなく、アウトドアを通
じて家族や仲間と一緒に
になって笑い、感動す
る特別な時間を提供で
きる場所づくりを大切
にしています。



©Aya Uranguchi

→ <http://www.muji.net/camp/>



100

「生物多様性の本箱」から

～みんなが生きものとのつながる100冊～

生物多様性の理解や普及啓発の
ために UNDB-J 推薦「子供向け図書」
を選定しています。



『もったいないばあさんと
考えよう世界のこと』

生きものがきえる』

著 = 真珠まりこ
出版・発行 = 講談社

生きものたちが絶滅する問題と
私たちのくらしとのつながり、
そして、生物多様性を子どもたち
にもわかりやすく伝える本です。著者
の真珠まりこさんは地球いきもの
応援団のメンバーでもあり、生物多
様性リーダーにも任命されています。

→ <http://undb.jp/cheering/436/>
→ <http://marikoshinju.com/blog/>

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

* UNDB = United Nations Decade on Biodiversity

「国連生物多様性の10年」の決定を受けて、2011年9月に設立。生物多様性の
主流化を目指して国内のあらゆる主体が連携し様々な取組を進めています。

編集・発行

国連生物多様性の10年日本委員会事務局(環境省自然環境計画課生物多様性施策推進室)

ホームページ URL : <http://undb.jp/> メールアドレス : shizen-suishin@env.go.jp

Facebook : <https://www.facebook.com/UNDB-J>